

言葉一つで世界は変わる

岐阜市立長森南中学校 3年
佐藤 志織(さとう しおり)

コミュニケーションは社会で生きていくために必要だと思います。なので、私は今、次の二つのことを気を付けて、人とコミュニケーションを取っています。一つ目は言葉の選び方と使い方です。そして、二つ目は声のトーンです。言葉には善と悪があり、少しの間違いで相手を傷つけてしまうことがあります。私は「相手を傷つけない。」そんな思いで、この二つのことを気を付けています。ですが、これだけがこの二つを気を付けているわけではありません。私は、自分のために気を付けているという理由の方が大きいかもしれません。言葉の選択を間違えると、場の雰囲気が悪くなったり、トラブルが起こったりなどします。そうすると、自分も嫌な気持ちになり、それが嫌で二つのことを気を付けています。つまり、コミュニケーションをとることは、自分のためにもなるのです。

以前の私は、すべてのことを自分一人でやっていて、うまくいかなかったら、「〇〇さんがやってくれなかったから」「手伝ってくれなかったから」と人のせいにし、他人を信用していませんでした。

そんなある日、部活である出来事が起こりました。それは、仲間とケンカをしてしまったことです。仲間とうまくコミュニケーションを取ることができず、さらに、ストレスを溜め込みすぎ、自分の感情のコントロールができなくなり、怒ってしまいました。そして、仲間も怒ってしまい、ケンカになりました。心の中では怒ってしまったことを後悔する私もありました。でも、「私は悪くない。母ならこの気持ちわかってくれる。」そう思い、私は母に相談をしました。しかし、母には怒られました。一ミリも私の味方なんかしてくれませんでした。それどころか、私の悪い所を言うだけでした。続けて、こんなことを言われました。

「自分が傷つかないためにも、自分を守るためにも、自分を変える必要があるよ。言葉の選択を間違えると知らないうちに相手を傷つけることがあるよ。それで、今回のトラブルが起こったんじゃないの。もう傷ついている姿を見たくないからこんなことを言っているんだよ。言葉遣いを気を付けて。」と言われました。これを聞いて、私は衝撃を受けました。こんなにも私のことを思ってくれているんだと。私のことを想っていてくれるからこそ、厳しい言葉をかけてくれているのだと分かり、とてもうれしかったです。私の母親がこの人で良かった。そう思いました。

私は母のためにも自分のためにも変わろうと思いました。人と話す時は感情にまかせて話すのではなく、冷静な気持ちで落ち着いて話すことを意識して、言葉を発する前には、心の中で、この言葉は相手を傷つけてしまわないか。思いやりのある言葉なのかどうかを考えてから話すようになりました。そして、すべてのことを自分一人でやらず、他人を頼るようになりました。そして、はじめに言った、二つのことを気を付けるようになってからは、徐々にトラブルも減っていき、ストレスもあまり溜まらなくなりました。今までは部活の雰囲気が悪く、全員が練習を嫌々していました。しかし、言葉遣いを気を付けるようになってからは、部活の雰囲気が良くなり、お互いにコミュニケーションを取り合うことによって部の士気が上がりました。今では、全員で一つの目標を決め、それに向かって練習ができています。私が言葉遣いを気を付けるようになっただけで、部の雰囲気も良くなり、笑顔の溢れる部活になっています。言葉遣いを気を付けるようになっただけで、こんなにも私の周りの雰囲気が良くなるとは思いませんでした。逆に、今まで知らず知らずのうちに、相手を傷つけてしまっていることにも気付かされました。

言葉一つで相手を傷つけることもあり、相手と仲良くなれることもあります。だからこそ、私はこれから言葉遣いに気を付けていきたいです。そして相手を守るためにも自分を守るためにも言葉遣いを変えていき、相手の気持ちを考え、思いやることで全員が笑顔で暮らせる社会になっていくことを願っています。そして、私がみんなが笑顔で暮らせる社会を作っていく一人になりたいです。